

2025 日韓親善交流事業（7/8-14）韓国（忠州チュンジュ）

Japan- Korea Exchange Program.

派遣団体名

JAPAN KANSAI LEAGUE CHAMPION TEAM

派遣選手名（4名）

JLW2 ×	吉村美紅 (YOSHIMURA Miku)	和歌山北高校
	村上葉留 (MURAKAMI Haru)	和歌山北高校
LM1 ×	江本拓斗 (EMOTO Takuto)	東レ滋賀
W1 ×	石田ゆき (ISHIDA Yuki)	京都大学

派遣役員名（2名）

団長	藤井範久 (FUJII Norihisa)	関西ローイング連盟理事長
コーチ	田中大誠 (TANAKA Hiromi)	和歌山北高校教員

JLW2 × 吉村美紅（和歌山北高校）

大きくて綺麗なコースでレースをすることができたり、韓国の選手の方々と交流することができたり、美味しいご飯をたくさん食べさせていただいたり、普段は出来ない経験をたくさんさせていただきとても充実した1週間でした。

この経験を活かしてこれからも練習やレースを頑張っていきたいと思います。

JLW2 × 村上葉留（和歌山北高校）

日韓交流親善試合に出場できて、とてもいい経験になりました。韓国のトップレベルの選手と交流したり、韓国の文化に触れることができてすごく楽しかったです。自分たちの課題も見つけることができました。次に向けて頑張ります。

W1 × 石田ゆき（京都大学）

この度、関西ローイング連盟 100 周年という記念すべき節目にあたり素晴らしい事業に参加させていただけたこと、非常に光栄な思いです。

この期間の全てが刺激的で、普段の競技生活では得られない経験をたくさんさせていただきました。まず弾琴湖漕艇場の設備の充実には驚かされました。コースはコンディションも良く、トップ選手が周りにいるという環境で集中して練習できたことで、レースには今までより挑戦的なレースプランで挑むことができました。

結果としては3着と、1着の選手には遠く及びませんでしたが、並んでいたスタート

のスピードを維持できる選手になろうという気概を得ました。また、派遣団内での交流も非常に良い経験となりました。普段異なるチームで漕いでいる強い選手、その指導者とこれほどお話しさせていただく機会は滅多になく、多くの学びを得ました。

自身の至らぬ点も温かくサポートしてくださり、周りの皆様に支えられた遠征だったと感じます。そして、韓国ローイング協会、忠州市の皆様をはじめとし、現地の方々には身に余る歓待をいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。今回素晴らしい経験をさせていただけたのは、関西ローイング連盟及び藤井団長、韓国ローイング協会をはじめとする多くの関係者の皆様のご尽力あってこそのものであり、感謝は言葉に尽くしきれません。この経験を活かして選手として成長し、良いレースを1本1本重ねていくことで関わってくださった皆様から受けた恩をお返ししていく所存です。

M1× 江本拓斗(東レ滋賀)

私が出場した男子軽量級シングルスカルでは、韓国代表選手をはじめ、オリンピック大陸予選に出場した選手など、非常に高いレベルの選手たちとレースをすることができました。結果は4位と悔しさが残りましたが、強い相手に前半から攻めるレースをできたことは大きな経験となりました。レース後には互いを讃えあい、交流を深めることで、国境を越えたよき友人、よき競争相手ができました。また、韓国のスタッフの皆様からの手厚く温かいサポートをはじめ、最高の環境をご用意いただけたことで、良いコンディションで試合に臨むことができました。今回、ローイングを通じた日韓交流で多くの経験を積み、多くの知見を得ることができました。これもひとえに韓国のスタッフの皆様、帯同スタッフの皆様、関西ローイング連盟の皆様、選手の皆様など多くのご尽力の賜物であり、深く感謝申し上げます。今後、ローイングを通じた日韓交流が更に発展することを祈念いたします。

田中大誠(コーチ)和歌山北高校

この度は、コーチという形で日韓親善大会に出場させていただき、貴重な経験をすることができました。日本チームは、女子ダブル優勝、女子シングル三位、男子シングル四位という結果を残すことができました。今大会を通じ、ローイング競技を行う上で、韓国環境が日本と比にならない程に優れていた事に驚かされました。そして、韓国ローイング協会の親善大会に対する意気込みと、日本チームに対する心温まるおもてなしの心には感銘を受けました。この試合を通じ、指導者として非常に良い経験ができた事は、関西ローイング連盟及び藤井団長、多くの関係者様のご支援、ご協力のおかげであるという事を十分に理解し、今後も引き続き指導者としてのスキルを高めて行きたいと思っています。

「2025 日韓親善交流事業」 2025 7/8-14 忠州 CHUNJUE JAPAN KANSAI LEAGUE CHAMPION TEAM

【会場】Tangan Lake International Rowing Center

※2013 世界選手権大会開催

常に安定したコンディションでとても素晴らしいコースで、周りは緑が多く公園になっており、近くには忠州博物館や遊具施設もあり休日は観光客も多い。



【大会名】 第 14 回韓国全国大会・
日韓親善大会

昨年は 9 月、今年は 7 月と開催時期が変動していて、これまでの交流事業は 4 月(2015)・9 月(2019)に招待を受けている。



沢山のカテゴリーがあり、韓国全土から多くのクルーが集まりますが、競技人口が少ないため、LM1×(江本)JLW2×(和歌山北高)が決勝のみとなった。

※7/9 -10 は韓国代表選手選考レース ○本大会 7/11-13

江本選手とレースをした LM1×優勝の選手は韓国代表選手で実力はありますが、来年のアジア大会には出場せず、このレース後 2 年間軍隊に行くとのこと。

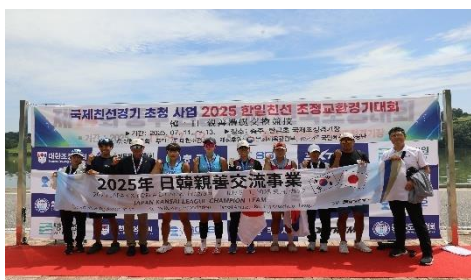


【交流レース結果】 7/11-13

LM1×(江本拓斗)東レ滋賀 4 位

W1×(石田ゆき) 京都大学 3 位

JLW2×(吉村、村上)和歌山北高校 1 位



滞在中は日本と同じく猛暑ではありましたが、そんな中、選手たちが個々としても、チームとしてもまとめ、素晴らしいパフォーマンスを見せてくれ、関西地区代表チームが日本代表として立派な結果を残してくれました。

【レンタルボート・オール・工具】

艇(W1×・JW2×Empacher・LM1×Hudson)、オール(Concept2)

予め選手のサイズをお伝えしておいたとはいえ、とても良い状態のものを準備していただいた。おかげで、リギングで苦勞することなく、練習やレースにも挑めた。大会前で多忙な中での準備に感謝したい。また、艇庫のワンスパンを日本チームだけに貸していただきゆっくり休むことが出来た。

オールは日の丸が貼れるように白にしてくれていて、現地役員から日本と分かるようにと要請されたので、文房具屋で赤のカッティングシートを購入し、レース日に合わせて田中コーチや女子2×の高校生が JAPAN オールにしてくれた。



【宿舎】 ホテルリバー

忠州駅の近くの新しいホテルで、大きな部屋を準備をしていただき、とても快適な環境で過ごせた。ホテルから会場までの移動は車で 15 分(通訳キムさんの運転)。

【食事】

朝食(ホテル)、昼食(会場近くの食堂)、夕食(宿舎近くの食堂)でしたが、9 日は忠州体育協会が、11 日大韓ローイング協会、12 日京畿道(キョンギドウ)ローイング協会会長からの招待。13 日忠州ローイング協会が、それぞれスタッフや日本チーム全員を会食に招待してくれ、韓国の料理(サムギョプサルや肉料理)をふるまっていたいただき、食後他のお店でさらにアイスクリームまでご馳走になりました。また、滞在中には昨年関西選手権に招待した韓国チームのコーチと団長が、遠方からわざわざ2時間かけて会いに来ていただき、再度親交を深める事も出来ました。各地方からたくさんのクルーが参加したこともあり、コーチ数は多く、女子コーチも多く見かける。聞くとところによると、韓国は選手、コーチ共プロらしく、専属であり、他の仕事は持っていない。もちろん「高体連」という組織もなく、ジュニアはその選手や担当コー



チがいる。因みにボート部がある学校は数校しかないとの事。

【お土産】

アジアにはお土産の文化を特に感じますが、関西連盟(KARAL)は、去年の招聘、今回の遠征とも「エイティーズ」さんに協力して頂き、遠征ポロシャツ、お土産用のTシャツ・帽子などを提供して頂いた。KARALからも、韓国で人気の京都の抹茶のお菓子やお酒類、コスメ関係なども持参した。※JARAからはバッヂ30個を提供していただき交流に役立った。選手たちも日本から各自お土産(お菓子類)を持ってきて、会食時や会場で積極的に交流してくれた。韓国協会や地元忠州関係者からは、選手、



スタッフ全員に本当に沢山のお土産を頂き、通訳のキムさん夫妻からも、地元の市場に連れて行って頂き全員にお土産を頂いた。とにかく、これ以上ないと思われるほどの「おもてなし」で、滞在中毎日、協会や関係者にこのような心温まるお気遣いに本当に感謝しかありません。伴走用の自転車(マウンテンバイク)を準備して頂いたり、冷蔵ケースにはいつも冷たい水が常備され、空調の効いたローイングタンクやトレーニングルーム等やコース設備は確実に世界を意識しており、日本のそれをかなり上回っているように感じる。それでも尚、コーチ達は、日本のローイング技術や強化方式から学ぼうとされていて、競技人口が増えたら一気に追い抜かれるでは、と感じるのは私だけでしょうか？

最終日、韓国協会事務局のハンさんがわざわざ空港までお見送りに来て頂き、お話しをしていたら(翻訳機能を使って)韓国協会は今後も交流が続けられるのを希望しているとの事。会場では、韓国オリンピック協会(体育会)からも2名の方がそのあたりの聞き取りに来られましたが、私としてはJARAの実情を伝えることしか出来なく、とても残念な思いで帰国しました。選手たちにとって、この交流事業で得た体験はこれからの競技人生の大きな礎となったことは間違いありません。今後、日本がアジア・世界各国とどのようなお付き合いさせていただくのか、この親善交流事業を継続していける方法をJARA国際委員会のみならず、各府県協会含め取り組んでいきたいものです。

以上「2025日韓親善交流事業」は成功裏のうちに終了した事をご報告致します。

※大会中、韓国でお仕事をされている守屋様(東レ)に昼食をご馳走になったりスイカの差し入れやカンパをして頂いたことも合わせてご報告いたします。

文責 関西ローイング連盟 藤井範久